

# 未来の世代のためのゼロ・ウェイスト社会

エコ

3 R

地域活性化

環境資源の保全

## NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー

代表者：理事長 坂野 晶  
所在地：徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下日浦  
94番地4  
設立認証：平成17年4月1日  
常勤職員数：4人  
活動分野：ごみの削減、循環型社会形成、環境の保全

### ○事業・活動の概要

ゼロ・ウェイストアカデミーは、徳島県上勝町を拠点とし、3R(reduce,reuse,recycle)を推進する様々な活動を始め、環境に配慮できる人材の育成、ゼロ・ウェイストに関する調査・研究などに取り組んでいる。具体的には、ゼロ・ウェイストの普及啓発のための講演や視察・研修の受入れ、アドバイス等を行うほか、まだ使えるが自分には不要になったものを必要な人が誰でも持ち帰ることができる「くるくるショップ」や不要になった布や綿などを使ってリメイク商品を製作・販売する「くるくる工房」の運営、町内にある資源・ごみ収集所の管理、イベント等へのリユース食器の貸出しなどである。

### ○ゼロ・ウェイストとエシカル消費

ゼロ・ウェイストとは、出てきた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもごみを出さないという考え方である。以前は焼却処分や埋立てするしかなかったものも、近年ではリサイクルの技術が進み、分別することによって「ごみ」ではなく「資源」として再活用されるものが増えている。

例えば、「リサイクルできる有害物質を含まない原材料で作られているものを選ぶ」、「必要な分だけ購入できる量り売りを利用する」、「過剰な包装は断る」など、商品を手にする時、いかにしてごみを出さないようにするかというゼロ・ウェイストの考えに基づいて行動することも、エシカル消費である。



公表日：平成30年6月27日 取材：平成29年12月  
外部リンク：<http://www.zwa.jp/>

### ○45種類に分別

上勝町からの委託により同法人が管理を行っている町内唯一の資源・ごみ収集所の分別数はなんと45種類である。分別された「ごみ」は、焼却・埋立てされる数種類(煙草の吸い殻や使用したティッシュなど)を除いて、それぞれ「資源」として活用するために、リサイクル業者が回収している。

上勝町ではごみ収集がなく、町民は年末年始以外は毎日午前7時半から午後2時まで、この収集所にごみを持ち込むことができる。持ち込んだごみの分別も町民自身で行う。分別箱には分別したものが、どこに行って、何になっているのかが分かるような表示があり、自分たちがリサイクルに貢献している実感を得られるようになっている。

また、生ごみは畑に還したり、生ごみ処理機(生ごみを微生物や菌などの作用で発酵させ堆肥にする)を使うなどして各家庭で処理をしている。

### ○ゼロ・ウェイスト認証

上勝町で始まったゼロ・ウェイストを採用するゼロ・ウェイスト宣言自治体も増えている(福岡県大木町、熊本県水俣市、奈良県斑鳩町)。

また、平成29年にはゼロ・ウェイストに取り組む事業所を独自の基準で公的に認証する「ゼロ・ウェイスト認証制度」を設立した。ゼロ・ウェイスト活動に必要な人材育成や、ごみの分別を行っていることなどの5つの項目を満たすことが申請要件であり、地域の食材を活用している、食材や資材の調達・食器や容器などについて、ごみの発生抑制に取り組んでいるなどの6つの認証項目のうち1つ以上適合する飲食店に対し認証を付与している。

平成29年4月に町内の6店舗を認証し、平成30年5月時点ではさらに、町内の飲食店1店舗と長崎県の飲食店1店舗が認証を取得している。

### ○他の団体や企業との連携について

上勝町内のごみの再資源化は81.0%(平成28年度)となり、焼却・埋立てするしかないごみの量は減ったが、持ち込まれるごみの量は減っていない。ほとんどの町民が町外の大規模店舗に買物に出かけていることから、大規模店舗及び、そこで販売される商品を製造するメーカーの協力が不可欠であり、徳島県内の大規模店舗をまわってヒアリングや量り売りの説明を行うとともに、製造メーカーと連携した容器包装削減など、ごみの発生抑制に取り組んでいく考えである。